

## 福岡未来創造プラットフォーム 令和2年度(2020年度)事業報告書(作業部会記入)

### 【ビジョン】

大学・自治体・産業界とのリソースの共有にもとづく高等教育及び地域の活性化の推進

- 若者が集積し、成長し、活躍する活気と魅力あるまちづくりの推進
- 多様な人びとが豊かな学びを通して活躍できるダイバーシティ社会の推進
- 大学・自治体・産業界の垣根を越えた知的・人的交流の促進と高等教育機能の向上

### 【令和5年度(2023年度)までの達成目標】

- 福岡市の発展を支える30以上の先進的な教育・人材育成プログラムを共同で開発  
(受講者数:延べ3,290人)
- 福岡市内の大学卒業者の市内企業就職率3%ポイント増加(2018年度比)  
(2019年3月:27.6% → 2024年3月:30.6%)

評価値	目標以上の成果を上げることができた	S
	目標を達成できた	A
	改善は必要だが、おおよその目標は達成した	B
	目標を達成できず、計画の見直しが必要	C

### 【令和2年度達成状況】

- 先進的な教育・人材育成プログラムの共同開発件数:5件(福岡ブランディング大学、福岡学、SDGsを学ぶ、起業塾、子どもの貧困を科学する2020)⇒下表、太字+下線部参照
- 受講者数:延べ125人 ●福岡市内の大学卒業者の市内企業就職率(2021年3月卒)⇒29.4%

学生募集作業部会						
中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	令和2年度達成目標	令和2年度実績	令和2年度取組状況 <b>【令和2年度事業計画名称】</b>	評価値とその理由
<全体>	◇福岡都市圏の大学の情報・魅力を九州内外の高等学校・生徒・保護者等に効果的に発信し、各大学の認知度向上を支援するとともに、「大学のまち福岡」で学ぶこと・暮らすことのブランド力を高めていくことによりエリア全体の学生募集力の強化を図る。	○ 参画大学の入学志願者数の増加率 2%ポイント増加(2018年度比)		※現在調査中		
(1) 高校生向けウェブサイト「DAiFuk.」の充実	プラットフォームが運営する高校生向けウェブサイト「DAiFuk.」において、福岡都市圏大学及び圏域の情報・魅力を全国に発信するとともに、ウェブサイトの内容等について検証と改善を重ね、情報発信力を高める。	○ ウェブサイトアクセス数 累計90万アクセス	○ ウェブサイトアクセス数 年間18万アクセス	● ウェブサイトアクセス数 198,785アクセス	<b>【「高校生向けウェブサイトの充実」事業】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• オープンキャンパス、学園祭情報</li> <li>• 新型コロナウイルスへの学生支援策情報</li> <li>• 福岡市のPR動画掲載</li> <li>• ふくおかカモン掲載 等</li> </ul>	B <ul style="list-style-type: none"> <li>• アクセス数の目標を達成できた。</li> <li>• 高校生へ直接訴求できる内容の情報がまだ不足しており、更新頻度と合わせ、より高校生の目線に立った内容の充実が必要と考える。</li> </ul>
(2) 各大学の募集活動を支援する広報媒体の開発	高校生や保護者に対して福岡都市圏への進学に対する好印象を与えるような広報媒体(パンフレット、動画等)を共同で開発する。	○ 広報媒体の開発件数 3件以上	○ 2019年度作成の広報媒体の展開	● 高校生向けパンフレットのWeb掲載	<b>【「各大学の募集活動を支援する広報媒体の開発」事業】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2019年度に作成した高校生向けのパンフレット「ふくおかカモン」について、ウェブサイト「DAiFuk.」に掲載した。</li> </ul>	B <ul style="list-style-type: none"> <li>• 当初は「ふくおかカモン」「福岡は宝島」を紙媒体で印刷し高校等へ持参することも計画していたが新型コロナウイルスの影響で高校訪問等が出来ない環境となったため印刷は控えることとした。</li> </ul>
(3) 学生募集力の強化に向けた調査・実証実験事業の展開	学生募集の新しい方策や手法の開拓を目的に、福岡都市圏大学の情報・魅力の効果的・効率的な発信や、新たな募集地域の開拓等に資する調査・実証実験事業を企画・実施・検証し、さらなる事業展開や仕組づくりに活用する。	○ 調査・実証実験事業の実施件数 4件以上	○ PRイベント参加者 100名	● オンライン合同進学説明会の開催1件(高校生・保護者のべ809人参加)	<b>【「学生募集力の強化に向けた調査・実証実験事業の展開」事業】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2020年12月19日と20日の2日間、「福岡12大学オンライン合同進学説明会」を開催し、参画大学の学生が学部学科毎に同じブースの中でディスカッションする形式で実施した。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>• 参加者からのアンケート結果では「コロナでオープンキャンパスが中止となるなか大学生の生の声が聞けてよかった」「一度に複数の大学の話を聞くことが出来てよかった」といった感想を得ることができ、PR活動としては一定の成果をあげることができた。</li> </ul>
(4) 大学生等を活用した広報体制の構築	高校生への情報発信にあたり、プラットフォーム参画大学の学生を中心とする広報体制を構築し活動を支援する。	○ 広報活動に参加した学生数 延べ100人 ○ 学生広報チームの結成 2020年度	○ 学生広報メンバーの編成 ○ 広報活動への参加学生 10名	● 学生広報メンバーを編成 ● 福岡ブランディング大学を開校※「 <b>福岡市の発展を支える先進的な教育・人材育成プログラム</b> 」としてカウント	<b>【「大学生等を活用した広報体制の構築」事業】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 九州博報堂と連携して福岡ブランディング大学を開校し、大学の街・福岡をブランド化し、情報発信していくことに興味があり、学生広報メンバーとして活動したい学生を募集した。</li> <li>• 福岡ブランディング大学としてオープンセミナーとメンバーワークショップを各2回開催し、ブランドについて学んだ。各回約30~50名が参加。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>• 九州博報堂の著名な講師の参画により予想を超える学生広報メンバーへの応募があった。37名を学生広報メンバーとして選出し、次年度以降の具体的な広報活動へ繋げていく。</li> </ul>

地域人材育成作業部会						
中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	令和 2 年度 達成目標 【令和 2 年度事業計画名称】	令和 2 年度実績 【令和 2 年度事業計画名称】	令和 2 年度取組状況 【令和 2 年度事業計画名称】	評価値とその理由 【令和 2 年度事業計画名称】
<全体>	◇各大学の教育・研究力と自治体・産業界の教育資源の融合による新たな学生教育プログラムを開発する。産官学が連携して福岡の歴史・文化、知識創造産業の集積、スタートアップ、MICE等、福岡の特色を活かした多様で質の高い教育プログラムを提供し、福岡都市圏の未来を担う人材の育成を目指す。 ◇地域貢献活動ならびに多様な人びととの交流を通じた学生の主体的な学びや社会人基礎力の向上を推進するための環境整備が必要である。そのため、大学の垣根を超えた学生ネットワークの構築に取り組むとともに、自治体・産業界からの物的・財政的支援を引き出す仕組みについても検討・考案する。	○「福岡未来創造プログラム」の開発 20 科目(4 コース) ○ 単位互換授業の実施 3 科目以上 ○ 各種教育プログラム受講学生数 延べ 2,050 人 ○「福岡未来創造プロジェクト」参加学生数 延べ 500 人 ○ 学生交流活動拠点の整備 5 ヶ所 ○ 外部資金を活用した支援制度の構築 1 件		●「福岡未来創造プログラム」の開発 2 科目 ● 単位互換授業の実施 1 科目 ● 各種教育プログラム受講学生数 94 人 ●「福岡未来創造プロジェクト」参加学生数 49 人 ● 学生交流活動拠点の整備 0 ヶ所 ● 外部資金を活用した支援制度の構築 0 件		
(1)「福岡未来創造プログラム」の開発	「地域の未来創造を担う人材の育成」に資する、時代に即したオリジナル教育プログラムを開発し、1機関では招聘できない多様な講師陣による集中講義形式で開講する。	○ 開講科目数 20 科目(4 コース) ○ 受講者数 延べ 1,550 人 ○「福岡未来創造人材」認定学生数 実受講者の 70%	【「福岡未来創造プログラム」の実施事業】 ○ 開講科目数 2 科目(福岡学、SDGsを学ぶ) ○ 受講者数 50 人  【「福岡未来創造プログラム」の開発事業】 ○ (2021 年度以降の新講座開発を目標)	【「福岡未来創造プログラム」の実施事業】 ● 開講科目数 2 科目(2 コース各 1 科目) ● 履修登録者数 8 大学 62 人 ● 受講者数 8 大学 49 人 ※「福岡市の発展を支える先進的な教育・人材育成プログラム」としてカウント  【「福岡未来創造プログラム」の開発事業】 ● (2021 年度以降の新講座開発を目標)	【「福岡未来創造プログラム」の実施】 ● コース 1「福岡を知る」 福岡テンジン大学の岩永学長コーディネートの元、福岡の歴史、経済、環境、未来をテーマにオンラインにて 4 回の講座を実施し、7 大学 18 名が受講。 ● コース 4「福岡の未来を創造する」 九州産業大学の全面的企画運営により全 4 日 15 回を対面で実施(うち 1 日はフィールドワーク)し、8 大学 31 名が受講。  【「福岡未来創造プログラム」の開発】 ● 地域人材育成 WG メンバーにて「福岡未来創造プログラム」の 4 つの柱:「福岡を知る」「地域の課題を解決する」「福岡の未来を創造する」「アジアとの共生を図る」を軸に主担当校を決定し、令和 3 年度より実行委員会形式で大学間、企業、自治体と協働でのプログラム開発に取り組む体制を整えた。	A 【「福岡未来創造プログラム」の実施事業】 ● 科目数で 100%、受講者数 98%であり、数値目標はほぼ達成することができた。 ● コロナ禍の中で多彩な講師を迎え“講師と学生”“学生と学生”の対話による PF ならではの学びを提供することができた。 ● ミニレポートやアンケート結果より福岡への愛着向上、持続可能な社会づくりへの行動変容が確認でき、高い学修効果をあげることができた。
(2) 単位互換制度を活用した多様な教育機会の提供	福岡都市圏の歴史や伝統に触れることで地元に対する愛着を醸成するとともに、国際的な視点や考え方に基づきグローバルに活躍できる人材を育成するために、一部の大学で共同開講している地域関連科目を単位互換科目として公開し、大学の垣根を超えて学生に多様な学びの機会を提供する。	○ 単位互換科目数 3 科目以上 ○ 受講者数 延べ 500 人	○ 履修登録者数 1 科目(博多学)履修登録者数 50 名 ○ Web アンケートの実施とアンケート結果への対応検討	● 履修登録者数 5 大学 64 名 ● 単位認定者数 5 大学 45 名 ● アンケート実施及び対応	【単位互換授業の実施】 ● 単位互換授業について、令和 2 年度も西部地区五大学連携による「博多学」を継続開講し、5 大学 45 名の単位を認定。 ● PF 加盟 15 大学に単位互換制度検討の必要性に関するアンケートを実施し、14 大学から得られた回答を検討した結果、開講可能科目設定や学生及び教職員負担の観点から単位互換制度については見送ることとした。	A ● PF 設立時より検討していた「博多学」の PF 開放と PF 単位互換制度について一定の結論をだすことができた。今後は、「福岡未来創造プログラム」を卒業要件に含めない自由科目として単位認定可能な大学は単位認定する方向で、より現実的かつ実効性のある教育機会提供を図る。

(3)地域活性化に取り組む大学生のネットワーク構築	各大学で様々な地域貢献活動に取り組む学生たちを横断的に取り纏めるネットワーク「福岡未来創造プロジェクト」を構築し、学生たちと多様な人びととの連携による地域活性化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プロジェクトリーダーの養成 延べ 50 人</li> <li>○ 地域交流事業数 延べ 15 事業</li> <li>○ 学生参加者数 延べ 500 人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学生交流プロジェクト」登録学生数 50 名</li> <li>○ 「学生交流プロジェクト」参加学生への活動証明書(仮)発行 40 名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「学生交流プロジェクト」登録学生数 8 大学 63 名</li> <li>● 「学生交流プロジェクト」参加学生数 8 大学 49 名 (14 名が登録後辞退)</li> <li>● 「学生交流プロジェクト」活動認定証発行 9 名</li> </ul>	<p><b>【学生ネットワーク構築】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域貢献活動を通じた学生ネットワーク構築として大橋商店街、香椎商店街の活性化に取り組んだ。</li> <li>● 5 回のオンラインミーティング後 7 グループに分かれ商店街活性化企画を提案するコンペを実施。コンペでの提案内容に応じてオンラインチームとオフラインチームにわかれ実現を目指した。新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言発令のため大幅変更や遅れが出たものの、メッセージランタン実施と SNS による商店街の魅力発信 (Instagram 投稿 25 件、YouTube 動画配信 6 本) を行った。</li> </ul>	<p><b>B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナ禍のため活動開始が 4 か月以上遅れ、緊急事態宣言による制約が大きかったが、参加学生アンケートでは学生の達成感と交流に対する満足感が確認できたことから事業目的は達成できたとと言える。</li> <li>● その一方で登録学生の辞退や活動参加率低下などの課題が残り、数値目標を達成するには至らなかった。今後、進め方の改善や認定証の発行基準検討を行う。</li> </ul>
(4) 学生活動拠点の整備	学生ネットワークの活動拠点や多様な人びととの交流拠点となる「たまり場」を福岡都市圏に確保し、学生たちが自由で自律的且つ主体的に活動に取り組むことができる環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福岡市中心区域に 1 ヶ所</li> <li>○ 福岡都市圏内に 4 ヶ所</li> </ul>	—	新型コロナウイルス対応による事業計画変更のため中止	新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和 2 年度は実施できなかったが、中長期計画達成目標を踏まえ継続的に取り組んでいく予定である。	—
(5) 外部資金を活用した支援制度の構築	PF の活動実績・成果を広く社会に発信することで、教育プログラムやプロジェクト活動に賛同する企業・自治体を増やし、そこから財政的支援を導き出すような仕組みを検討・実現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動成果報告会の開催 5 回</li> <li>○ 支援企業、団体の獲得 5 件</li> <li>○ 活動補助金制度の構築 1 件</li> </ul>	—	新型コロナウイルス対応による事業計画変更のため中止	新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和 2 年度は実施できなかったが、中長期計画達成目標を踏まえ継続的に取り組んでいく予定である。	—

地元就職・定着作業部会						
中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	令和2年度達成目標	令和2年度実績	令和2年度取組状況 <b>【令和2年度事業計画名称】</b>	評価値とその理由
<全体>	◇福岡都市圏の大学生が地域企業に対して理解を深め、福岡で働くこと・暮らすことへの関心を高めるための企画や事業等を大学・自治体・産業界が共同で推進し、若者の地元就職・定着の促進を図る。 ◇起業・創業マインドを持った優秀な若者の輩出と地元定着の促進に向けて、大学生の起業・創業を支援する人材育成プログラムの開発・実施や環境整備等を大学・自治体・産業界が連携協力して推進する。	○ イベント等への学生等の参加者数 延べ3,100人 ○ インターンシップ・キャリア教育プログラム等の共同開発数 4プログラム以上 ○ 地域企業インターンシップ等の受講者数 延べ240人 ○ 起業家の輩出数 10人		● イベント等への学生等の参加者数 延べ1,702人 ● インターンシップ・キャリア教育プログラム等の共同開発数 0プログラム ● 地域企業インターンシップ等の受講者数 15人 ● 起業家の輩出数 4人		
(1) 地元就職・定着に資する事業の共同実施	大学生を対象とした「福岡で働くこと・暮らすこと」を学ぶイベント、地域企業で働く人との交流会、地域企業の説明会等を企画・実施する。	○ イベント等への学生等の参加者数 延べ3,100人	○ オンライン合同企業説明会を実施し、1回あたりの参加者500名以上	● 出展企業 延べ81社 ● 参加者数 延べ1,702名 PF 参画大学 ※全体2,930名	<b>【地元企業による学生のための事業】</b> オンライン合同企業説明会 ・ 8月1日、2日、10月17日、18日(計4日間) ・ オンライン(ZOOM)開催	B ・ オンライン合同企業説明会を4日間実施し、合計の参加者数が1702名、1日あたり426名だった。
(2) 地域企業インターンシップ等の共同実施	若者の地元就職・定着の促進につながる地域企業インターンシップやキャリア教育プログラム等を各種団体への調査結果を踏まえ、開発・実施する。	○ インターンシップ等の開発 4プログラム以上 ○ 受講者数 延べ240人	○ キャリア教育及びインターンシッププログラムの共同開発 ○ 学生と社会人の交流イベント『オンラインモグジョブ』実施	● キャリア教育及びインターンシッププログラムの開発は未着手 ● 参加者15名(5校) 参加企業各2社	<b>【地域企業インターンシップ等共同実施】</b> オンラインモグジョブ ・ 実施日:2月24日(水)・26日(金)16:00~17:00 実施形態:オンライン 参加学生数15名(5校) (福岡大学、九州産業大学、筑紫女学園大学、福岡工業大学、九州大学)	C ・ キャリア教育及びインターンシッププログラムの構築はコロナの影響でWG内での検討に留まり、外部への依頼ができず終了した。
(3) 起業・創業人材の育成支援及び環境整備	各大学へアントレプレナーシップ教育の状況調査をおこない、その結果を踏まえ、学生の起業・創業に向けた支援及び環境整備を企画・実施する。	○ 起業家の輩出数 10人	○ 起業家1名輩出	<b>【起業塾】</b> ● 受講者数 22人 ※「福岡市の発展を支える先進的な教育・人材育成プログラム」としてカウント ● 大学間創業連携のあり方策定に向けた調査・検討に着手	<b>【起業・創業人材育成支援及び環境整備】</b> ・ 起業塾キックオフセミナー 実施日:10月8日(木)19:00~20:30に開催。 実施形態:オンライン(ZOOM) 参加学生数:74名 ・ 起業塾 参加チーム6チーム22名 (チーム代表学生の所属大学:福岡大学3チーム、九州大学3チーム)	A ・ オンラインに切替え、期間を短縮して起業塾を実施した。今年度の受講者のうち1チーム(3名)が開業、1チーム(1名)が法人登記し、合計4名の起業家を輩出した。

生涯学習作業部会						
中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	令和2年度達成目標 【令和2年度事業計画名称】	令和2年度実績 【令和2年度事業計画名称】	令和2年度取組状況 【令和2年度事業計画名称】	評価値とその理由 【令和2年度事業計画名称】
<全体>	◇多様な人びとが豊かな学びを通して社会のなかで活躍できるダイバーシティ社会の実現に向けて、プラットフォームに参画する大学・自治体・産業界が一体となり、子どもから社会人、高齢者に至るまで、地域の多様な人びとの主体的な学びと成長、社会での活躍を促す学習環境の提供・充実を推進する。	○ 生涯学習・リカレント教育プログラムの共同開発数 9プログラム以上 ○ 受講者数 延べ1,000人 ○ プラットフォーム参画大学の生涯学習プログラムの情報や魅力等を効果的・効率的に発信する仕組の整備 2023年度完了		● 生涯学習・リカレント教育プログラムの共同開発数 1プログラム ● 受講者数 76人		
(1)生涯学習・リカレント教育プログラムの充実	社会人、子ども、女性、高齢者、外国人及び障がい者を初めとした、地域の多様な人びとの社会での活躍や貢献を促す質の高い生涯学習・リカレント教育プログラムを開発・実施する。	○ 生涯学習・リカレント教育プログラムの共同開発数 5プログラム以上 ○ 受講者数 延べ600人	【「子どもの貧困を科学する」(その2)】 ○ 80人(定員20名×4回)  【教育人材育成に関するプログラム】 ○ プログラム参加者数 40名	【「子どもの貧困を科学する」(その2)】 ● 生涯学習・リカレント教育プログラムの共同開発数 1プログラム(子どもの貧困を科学する2020) ● 受講者数 延べ180名(1回:76人、2回:55人、3回:49人) ※「福岡市の発展を支える先進的な教育・人材育成プログラム」としてカウント ※複数回にわたる教育・人材育成プログラムの場合、「受講者数」は第1回目の受講者数(76名)とする。  【教育人材育成に関するプログラム】 ● 教育人材育成に関するプログラムは、新型コロナウイルスの影響により実施していない。	【「子どもの貧困を科学する」(その2)】 ● 学習を通して、子どもの貧困に関する活動をしている人、関心のある人のネットワークづくりを目的。12月～2月で全3回をオンラインにて開催。受講者数は、各回の合計で180名。  【教育人材育成に関するプログラム】 ● 教育人材育成に関するプログラムは、新型コロナウイルスの影響により実施していない。	B 【「子どもの貧困を科学する」(その2)】 ● 達成目標に掲げていたプログラムを実施し、受講者も概ね到達目標値に近い参加者を募ることができた。新型コロナウイルスの影響で初めてのオンライン開催となったが、十分な成果をあげることができたと考える。  【教育人材育成に関するプログラム】 ● 新規プログラムの開発については、新型コロナウイルスの影響により、従来とは異なる形での開催方法を模索しなければならず、結果的に新規開発に至らなかった。
(2)小・中・高等学校の教育支援の推進	小中学校及び高等学校の学校現場が抱える課題についてヒアリング等を通して洗い出すとともに、大学・自治体・産業界が提供できるリソースを提示し、各学校のニーズとマッチングする。	○ 教育支援プログラムの共同開発数 4プログラム以上 ○ 受講者数 延べ400人	○ 1プログラム 40名	—	【小・中・高の教育支援】 ● 小・中・高等学校の教育支援事業は、新型コロナウイルスの影響により実施していない。	C ● 新型コロナウイルスの影響による小中高現場の負担感に配慮し、ヒアリングを実施しなかった。それに伴い、新規プログラムの開発には至らなかった。

<p>(3) 生涯学習環境の充実にに向けた調査・実証実験の展開と整備の推進</p>	<p>福岡都市圏の生涯学習環境の充実に向けて、ニーズや人材の把握、効果的な生涯学習情報の発信等に関する調査・実証実験事業に取り組むとともに、その成果に基づき環境整備を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調査・実証実験事業の実施件数 5 件以上</li> <li>○ アンケートの回収数 1,000 件以上</li> <li>○ ヒアリング数 15 件以上</li> <li>○ 生涯学習環境の整備 2023 年度までに生涯学習情報発信の仕組整備</li> </ul>	<p><b>【リカレントカフェ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ イベントの参加者数 リカレントカフェ:60 人</li> </ul> <p><b>【生涯学習環境の充実にに向けた調査・実証実験事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ PF 参画大学の生涯学習プログラムを紹介する講座の受講者数 150 人</li> </ul>	<p><b>【リカレントカフェ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 調査・実証実験事業の実施件数 1 件</li> <li>● アンケート回収数 未実施</li> <li>● ヒアリング数 未実施</li> <li>● イベントの参加者数 リカレントカフェ:82 人 (1回:43 人、2回:39 人)</li> </ul> <p><b>【生涯学習環境の充実にに向けた調査・実証実験事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生涯学習情報発信事業は、新型コロナウイルスの影響により実施していない。</li> </ul>	<p><b>【リカレントカフェ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会人の学びのニーズを探るとともに、リカレント教育の普及・推進の担い手発掘及びネットワークづくりを進めることを目的に、9 月と 3 月に全 2 回開催。参加者総数延べ 82 名。</li> </ul> <p><b>【生涯学習環境の充実にに向けた調査・実証実験事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生涯学習情報発信事業は、新型コロナウイルスの影響により実施していない。</li> </ul>	<p>B</p> <p><b>【リカレントカフェ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 達成目標に掲げていたリカレントカフェについては、受講者も概ね到達目標値に近い参加者を募ることができた。新型コロナウイルスの影響で初めてのオンライン開催となったが、十分な成果をあげることができたと考える。ただし、アンケートが実施できておらず、次年度は必ず実施する体制を整えたい。</li> </ul> <p><b>【生涯学習環境の充実にに向けた調査・実証実験事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生涯学習情報発信事業については、新型コロナウイルスの影響により、従来とは異なる形での開催方法を模索しなければならず、結果的に新規開発に至らなかった。</li> </ul>
---	--	---	--	--	--	---

大学・自治体・産業界交流作業部会						
中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	令和2年度達成目標	令和2年度実績	令和2年度取組状況【令和2年度事業計画名称】	評価値とその理由
<全体>	◇プラットフォーム参画機関を中核として、福岡都市圏の大学・自治体・産業界の組織の垣根を越えた交流・連携を活性化し、多様な人びとの入り混じりを通して異なる分野を越境し融合する新しい知の創造や人材の成長を促す環境づくりを推進する。 ◇プラットフォーム参画機関の経営力の強化や財政負担の軽減を目的に、知的・人的・物的資源の共有化や業務の共同化の様々な可能性について調査・検討し、それらを実現するための体制や制度、仕組みづくりを推進する。	○ 産官学の組織の垣根を越えた交流者数 延べ2,180人 ○ 交流・支援に基づく新規企画・事業等の実現件数 20件 ○ 人事交流の実績件数 15件 ○ 資源共有化や業務共同化の実績件数 9件		● 産官学の組織の垣根を越えた交流者数 135人 ● 交流・支援に基づく新規企画・事業等の実現件数 3件 ● 人事交流の実績件数 1件 ● 資源共有化や業務共同化の実績件数 0件		
(1)対話と交流の場づくりの推進	大学・自治体・産業界の対話と交流の場を継続的に開催することで、組織の垣根を越えた顔の見える関係性づくりを進めるとともに、福岡の未来創造につながる多様な提案の創出につなげる。	○ 交流イベントへの参加者数 延べ580人 ○ 交流に基づく新規企画・事業等の提案件数 21件	○ 対話と交流の場への参加者数 延べ120人以上 ○ 対話と交流に基づく新規企画・事業等の提案件数 3件	● 対話と交流の場への参加者数 延べ135人 ● 対話と交流に基づく新規企画・事業等の提案件数 3件(うち1件は令和2年度に実施、2件は令和3年度に実施予定)	<b>【対話と交流の場づくりの推進事業】</b> ● 福岡都市圏で先進的な教育・人材育成に携わる大学・自治体・産業界等の有志メンバーが定期的集まり、「福岡の未来の学びの創造」に向けて対話を行うキーパーソン交流会「福岡まなびラボ(旧称:フューチャーセンター福岡)」をオンラインで開催した。 今年度は、新型コロナウイルス状況下での情報交換会、コミュニケーションをテーマにした学習会、福岡の未来創造につながる新規事業の提案に向けたピッチ大会や意見交換会等を実施した。計10回開催し、延べ135人が参加した。うち1回はメンバー以外も参加できる公開型の対話イベントとして実施し、多様な参加者とともに事業構想づくりに取り組んだ。 「福岡まなびラボ」の対話と交流から「ふくおかキャリア共創ラボ」(生涯学習WGに提案⇒令和3年度に実施予定)、「対話とファシリテーション研修」(大学・自治体・産業界交流WGに提案⇒令和2年度に実施)、「対話と学びの学園祭」(同WGに提案⇒令和3年度に実施予定)の新規事業3件の企画・提案につながった。	A ● 対話と交流の場への参加者数及び新規企画・事業の提案件数の目標を達成することができた。 ● 「福岡の未来の学びの創造」をテーマに大学・自治体・企業・経済団体・NPO・小中高等学校等の多様かつ先進的なメンバーによる質の高い対話及び関係性づくりが進んでいる。 ● 福岡まなびラボの活動を通して、PFのニーズや課題に対応した質の高い事業を創出することができている。「ふくおかキャリア共創ラボ」は生涯学習WGが掲げる「小中高等学校の教育支援の推進に資する事業の開発」が十分に進んでいなかったこと、「対話とファシリテーション研修」はWGの定例会における議論や意見交換をもっと円滑に進めたいというニーズがあったこと、「対話と学びの学園祭」はPFの重要なビジョン(産官学の垣根を越えた交流の促進)の実現が目的であることから、それぞれ企画・開発が進められた。
(2)共同研修事業の推進	参画機関の人材の資質向上及び交流の促進を目的に、効果的な研修プログラムを開発・実施する。加えて、各機関の既存研修プログラムを他機関の職員等も受講できる仕組みづくりを進める。	○ 研修の共同実施件数 30件(PF主催:10件 既存開放:20件) ○ PF主催研修の参加者数 延べ400人 ○ 既存研修への他機関参加者数 延べ200人	○ 研修の共同実施件数 2件以上(PF主催) ○ 研修への参加者数 80人	● 研修の共同実施件数 2件(PF主催) ● 研修への参加者数 65人	<b>【共同研修事業の推進事業】</b> ● PF主催の共同研修として「大学事務職員によるSD研修会」(10月28日、オンライン)を企画・実施した。本研修では、大学運営を担う「大学アドミニストレーター」の育成を目的に、第1部では私立大学等経常費補助金の基礎的な知識の習得(講師:福岡大学)に、第2部では大学の強みを生かした取組事例の共有(講師:純真学園大学、福岡工業大学、中村学園大学)に取り組んだ。本研修には11大学、1自治体の職員計37人が参加した。 ● PF主催の共同研修として「対話とファシリテーション研修ーアイデアを引き出し、当事者意識をつくるー」(10月30日、オンライン)を企画・実施した。本研修では、対面会議・オンライン会議ともに活用できる対話とファシリテーションの基礎を学ぶことを目的に、福岡のトップファシリテーターである福岡中小企業経営者協会の古賀正博氏と福岡テンジン大学の岩永真一氏を講師に迎えて座学とワークショップに取り組んだ。本研修には、大学(6大学)、自治体、産業界、NPO、小学校から計28名が参加した。	B ● 実施件数の目標は達成することができた。参加者数は81%の達成率であり、参加者数の向上は次年度の課題である。 ● 2つの研修ともに、PFの強みを生かした、大学間及び産官学間の組織の垣根を越えた質の高い学びあいと交流の場を実現することができた。 ● 参加者のアンケート結果にもみられるように、複数機関(大学間、産官学間)で研修を共同実施することにより、多様な組織・属性の参加者との学びあいや交流により多様な視点から研修テーマについて考えを深めることができるなど、高い学習効果を得ることができたと考えられる。また運営面でも、複数機関で研修を共同実施することにより、一機関あたりの労力の軽減につながった。

(3) 人事交流の促進	参画機関内の人事交流の促進及び人材の育成を目的に、人事交流に関する調査・検討を進め、制度や仕組みづくり、機関間のマッチング、及び実施結果の検証等に取り組む。	○ 人事交流の実績件数 15 件	新型コロナウイルスの影響により中止	新型コロナウイルスの影響により中止 ● 人事交流の実績件数 1 件	※令和 2 年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止としたが、次年度に向けて下記の準備に取り組んだ。 ● 後述の通り、PF 参画機関を対象に「共同調達・共同利用・人事交流に関するアンケート調査」を実施し、各機関の人事交流に関するニーズや課題等の把握を行った。 ● 福岡市から九州大学へ派遣。 総務企画局主査→国立大学法人九州大学キャンパス計画室学術推進専門員	—
(4) 資源の共有化や業務の共同化の検討及び実施体制の構築	教育・研究・社会連携等の資源の共有化や業務の共同化の様々な可能性(備品・設備等の共同購入、施設・設備等の共同利用、業務システムの共同開発、クロスアポイントメント制度の実施、事務の共同運営等)について調査・検討し、その実現のための調整機能を有する組織体制の構築や制度の整備、機関間の調整等に取り組む。	○ 資源共有化や業務共同化の実績件数 9 件 ○ 実施体制の構築 2020 年度(調整組織の設置)	○ プロジェクトチームの設置	● プロジェクトチームの設置 (令和 2 年 11 月)	【資源の共有化や業務の共同化の検討及び実施体制の構築事業】 ● PF 参画機関の経営力の強化や財政負担の軽減を目的に資源共有化・業務共同化の可能性について調査・検討し、その実現に向けた企画・制度設計・調整等に取り組むプロジェクトチーム(資源共有チーム)を大学・自治体・産業界交流 WG 内に設置した。 ● プロジェクトチームでは、①資源共有化・業務共同化に関する全国の先進事例の調査に取り組み、チーム内で共有・検討を行った。②これらの事例を参考として、PF 参画機関のニーズや課題を把握することを目的に「共同調達・共同利用・人事交流に関するアンケート調査票」を作成し、アンケート調査を実施した。	B ● プロジェクトチーム設置の目標を達成することができた。 ● PF 参画機関間の資源共有化・業務共同化の実現に向けた最初の取組として、アンケート調査を実施し、各機関の資源共有化・業務共同化に関するニーズや課題、また、実現可能性が高いメニュー等を把握することができた。 ● 事業計画のスケジュールよりも、プロジェクトチームの設置やアンケート調査の実施時期に遅れがでたため、プロジェクトチーム内でのアンケート調査結果の詳細な分析は次年度に持ち越しとなった。
(5) プラットフォーム内の組織の垣根を越えた自主的活動の支援・認定制度の整備	プラットフォーム内の組織の垣根を越えた交流の促進に資する自主的な企画や事業(課題解決型プロジェクト、学習会、各種イベント等)を人的・資金的に支援するための制度や仕組みの整備に取り組む。	○ 支援制度に基づく自主的な企画・事業等の実績件数 10 件 ○ そのほか PF が認定する自主的な企画・事業等の件数 10 件 ○ 支援・認定制度に基づく交流者数 延べ 1,000 人	新型コロナウイルスの影響により中止	新型コロナウイルスの影響により中止	※令和 2 年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止としたが、次年度に向けて下記の準備に取り組んだ。 ● 令和 3 年度からの支援・認定制度の開始に向けて、大学・自治体・産業界交流WG内にプロジェクトチーム(自主活動認定・支援チーム)を設置し、事業名称(福岡よか未来プロジェクト)の決定、公募要領の見直し、認定・支援制度の設計等に取り組む、募集の準備が整った。	—